

第5学年 国語科学習指導案

児童 男子 21名 女子 18名 計 39名
指導者 塚本 岳也

- 1 単元名 読書の世界を広げよう 教材名 「千年の釘にいどむ」「本は友達」
- 2 単元について

■指導事項（新学習指導要領）■

- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんだりすること。 <読むーウ>
- 本や文章を讀んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。 <読むーオ>

(1) 児童の実態

児童はこれまでに、4学年「本と友達になろう」で、いろいろな本を讀み、「おすすめの本」カードを作って、友達に紹介する学習を行った。5学年においては、「サクラソウとトラマルハナバチ」で、重要語句・接続語・指示語・文末表現に着目し、段落ごとの内容をとらえることや、要旨をまとめ、筆者の考えと関連づけて自分の考えを持つ学習を行ってきた。これまでの学習を通して児童は、文末表現や文章構成を手がかりにしながら筆者の主張を自分なりに読み取ることができるようになってきている。しかし、適切な言葉や文章を使って要旨をまとめることができる子どもは多いとは言えない。また読み取った内容や自分の考えをみんなの前で進んで発表しようとする児童とそうでない児童の個人差が大きい。

読書の様子を見ると、朝読書で集中して本に向き合う姿が見られ、読書が好きな児童が多い。物語やハリーポッターなどのシリーズを好んで読む児童が多いが、中にはひみつシリーズなど比較的安易な内容の本を選ぶ児童も見られる。

(2) 教材について

本単元「読書の世界を広げよう」は、「千年の釘にいどむ」を讀み、古代の釘の見事さや、四国の鍛冶職人である白鷹幸伯さんの生き方や考え方を読み取る学習をきっかけにして、本の楽しさに気づき、自分の読書の世界を広げ深めていくことがねらいである。

「千年の釘にいどむ」の文章は、鉄の純度、形、硬さといった側面から説明したり、「これが釘かと思えるほどの大きさではないか」「驚くべきことを発見した」など読者の興味をひくような表現を用いたりして、児童にとって読みやすい構成になっている。また、「かげも形もない」などの慣用句を効果的に用いるといった表現上の工夫も見られる教材である。

「本は友達」では、伝記の本を讀み、その本から学んだ人の生き方や考え方について、友達に紹介するための読書会を開く。本を通じて自分が考えたことや感じたことを感想にまとめ、交流を通して、友達の考え方や感じ方に触れたり、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる教材である。

(3) 指導にあたって

みとおす（導入）段階では、ブックトークを開いて、伝記の本を讀みたいと思う雰囲気を作る。また、本から人の生き方を学ぶという単元のめあてを確認した上で、人の生き方読書会を開くという本単元の最後の学習活動を示し、その学習計画について考えさせていきたい。

ふかめる（展開）段階では、伝記を讀む視点に基づいて「千年の釘にいどむ」を讀ませる。文章構成や文末表現、指示語、白鷹さんの言葉や行動に着目させ、白鷹さんの熱意、職人としての意地やプライドなどを考えさせたい。

まとめる（終末）段階では、自分が選んだ伝記の本から何を学んだかを友達に紹介するための効果的な方法について学んだり、読書会そのものの進め方を確認したりしながら活動を行うようにさせる。また、発表会では、友達の発表から自分の考えを広げることの良さを実感できるようにさせたい。さらに、読書会の感想を交流し合い、自分の読書活動の広がりや深まりを再確認し、今後の読書に生かしていけるようにさせたい。

(4) 研究との関連

本単元では、「交流を通じた言語活動」として、「伝記の本を讀んで、何を学ぶのかを交流し、

学習計画を考える」「『千年の釘にいどむ』を読み、白鷹さんの考えや、生き方について考えたことを交流する」「伝記の本を読み、学んだことを交流しあう」を設定する。特に、導入段階において、人の生き方読書会で自分が発表する本を選ばせ、並行読書に取り組みさせることにより、本単元学習への意欲を高めたい。

本単元で身に付けさせたい言語能力 ■ 説明的文章

- 目的に応じて必要なことを読み取る力
- 自分の考えを明らかにする力

3 単元の目標

- (1) 取り上げられた人物の生き方や人生を描いた伝記を読み、内容・感想を交流する読書会を通して、自分を見つめ直し、自分の生き方について考える。
- (2) 日本の伝統や職人の技に興味をもち、白鷹さんの職人としての考え方や生き方をとらえさせる。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・伝記を読み、感想を伝え合い、考えを深めようとしている。	・目的に合わせて、本を選んだり効果的に読んだりして、自分の感想をもっている。	・表現したり、理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べている。

5 学習計画及び評価規準（全14時間）

段階	主な学習活動	評価規準	交流を通じた言語活動		
一次 (導入)	みと おす (3)	学習の見通しをもつ。 ・伝記を読む意義について考える。 ・自分が読みたい本を選ぶ。 ① ・「人の生き方」読書会についての学習計画を立てる。(本時) ①	・伝記とはどんな本か理解している。 ・伝記を読む視点を考えている。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 伝記の本を読んで、何を学ぶのかを交流し、学習計画を考える。 </div>	
		・千年の釘を読んで、課題作りと解決の見通しを考える。 ① ・自分の選んだ本の並行読書をする。(時数外)	・千年の釘の良さや白鷹さんの行動について疑問や感想をもっている。		
		教材文を読み、自分の考えをもつ。 ・古代の釘の見事さを考える。 ① ・白鷹さんの釘作りへの思いを考える。 ② ・白鷹さんの生き方や考え方に対する自分の考えをもつ。 ①	・古代の釘の材質・形・かたさの見事さを考えている。 ・白鷹さんの釘作りへの思いや願い、職人としての意地を叙述に即して考えている。 ・自分の感じたことや考えたことを明確にして、必要な事柄を整理して感想を書いている。		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 白鷹さんの考えや生き方について考えたことを交流する。 </div>
三次 (終末)	ま と め (7)	「人の生き方」読書会を開く。 ・読書会の方法を確認する。 ・再度、紹介する本を読み、発表に必要なことを整理する。 ② ・読書会に向けて発表原稿を作る。 ③ ・読書会を開く。 ①	・読書会の方法や進め方を理解している。 ・発表に必要な事柄を自分なりに選んでいる。 ・自分が本から学んだことが伝わるように文章にまとめている。 ・自分が本から学んだことが伝わるように発表している。 ・友達の発表内容で印象に残ったことを書きとめている。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 伝記の本を読み学んだことを交流しあう。 </div>	

	・これまでの学習を振り返り、今後の読書について考えを書く。①	・自分のこれからの読書についての考えをもとうとしている。	
--	--------------------------------	------------------------------	--

6 本時の指導

(1) 目標

「人の生き方」読書会に向けて、伝記から自分の学ぶことを考えて、学習計画を立てる。

(2) 展開

段階	学習内容と学習活動	指導・支援と評価
みとおす (5)	1 前時の学習を想起する。 2 本時のめあてを確認する。 「人の生き方」読書会に向けた学習計画を立てよう	・伝記について学習したことを確認する。
ふかめる (30)	交流を通じた言語活動 3 自分の選んだ本をグループ（生活班）で紹介する。 （1）誰の伝記を読みたいか。その理由は何か。 （2）出された理由をもとに、伝記から何を学ぶのかを考える。 4 グループ発表をもとに全体で伝記を読む視点について話し合う。 ・～さんは、どうしてそんなすごいことができたのかを学びたいです。 ・～さんが、…するときにどんな考えをもっていたのか知りたいです。 ・～さんが、大変な思いをしてまで…していたのかを学びたいです。	・自分が読みたい本を発表することで意欲と読書会に参加する意識を高める。 ・理由の共通点や相違点に着目させて、話し合いをさせる。 ・自分の考えや生き方と比較したり、似ているところを見つめさせる。 ・発表した内容と関連することを取りあげ、グルーピングしながら進める。 ・グルーピングした内容のキーワードを考えさせ、焦点化をはかる。 【行動にあこがれ】 【困難を乗り越えて】 【信念をつらぬく】 等 ＜評＞伝記を読んで何を学びたいか考えている。
まとめる (10)	5 学習のまとめをする。 ・学習計画表で今日の学習を確認する。 6 次時の学習内容を確認する。	・「人の生き方」読書会や自分の選んだ本の読書についてどう取り組みたいかという気持ちを発表させる。 ・千年の釘の実物を見せ、教材文「千年の釘にいどむ」の学習への意欲化を図る。

(3) 交流場面の設定

項目	内 容
場面・形態	グループ（4～5人 生活班） 自分の選んだ本と選んだ理由を発表し、学びたいことについて話し合う。
ねらい	友達の意図を理解するように聞き、その後の話し合いにつなげる。
留意点	自分と友達の考えを比べながら聞くようにさせる。
教師の動き	・机間指導をし、発表が苦手な児童の様子をみて支援する。 ・全体交流に出したい意見を確認する。

(4) 本時の具体的な評価

A 十分に満足できる	B おおむね満足できる	努力を要する場合の手だて
伝記から、その人の生き方や考え方と自分の経験や考え方と比べて読む視点をもって、学習計画についての意見を述べている。	伝記からその人の生き方や考え方を学ぶという視点をもって、学習計画についての意見を述べている。	自分の選んだ本から何を学びたいのかについて考えさせる。